

TOPIC

国際原子力機関(IAEA)理事国の大使6名が本学を視察しました

令和6年2月13日(火)に国際原子力機関(以下、IAEA)理事国を務める6カ国の大使が本学を視察しました。来学したのは、海部篤大使(外務省在ウィーン国際機関日本政府代表部特命全権大使)、ジャイディー・マズムダール大使(インド大使)、ホルガー・フェデリコ・マルティンセン大使(アルゼンチン大使)、マイモウナタ・ワタラ大使(ブルキナファソ大使)、イアン・デイヴィッド・グレインジ・ビッグス大使(オーストラリア大使)、アサド・アラム・サイアム大使(バングラデシュ大使)の6名です。

IAEAと本学は、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故後の2012年12月に覚書を締結し、「人の健康」分野における協力プロジェクトを開始しました。この覚書締結以降、本学は放射線医学教育や放射線災害医療における研究など、様々な面でIAEAと協力を続けています。

今回の視察は、我が国における最先端の原子力活動、特に放射線の医療分野への応用を始めとする原子力の平和的利用の取組等について理解を深めてもらうことを



IAEA理事国大使6名を迎えての歓迎セレモニー出席者による集合写真と視察風景

目的とするものです。

歓迎セレモニーでは、本学から竹之下誠一理事長兼学長、扶間章博副理事長、安村誠司理事兼副学長、山下俊一副学長が出席し大使らを迎えました。竹之下理事長兼学長から「本学とIAEA加盟国との協力関係がさらに発展していくことを願っている」とあいさつがあり、海部大使からは「視察を通して最新の医療の知見を深める。福島を取組を日本や世界に発信したい」と述べられました。

その後行われたワークショップでは、放射

線災害医療学講座長谷川有史主任教授が本学附属病院放射線災害医療センターを案内し、福島第一原発事故後の本学の医療対応などについて説明を行いました。

また、安村理事兼副学長からは県民健康調査の説明があり、放射線腫瘍学講座鈴木義行主任教授及び先端臨床研究センター高橋和弘教授から放射性核種アスタチンを用いたがん治療薬の開発について説明があり、先端臨床研究センターのサイクロトロンを見学しました。

NEWS

県内初!となる ロボット支援下経口的咽頭癌切除術を実施

本学附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、令和6年1月に福島県内初となる「ロボット支援下経口的咽頭癌切除術」を行いました。

頭頸部は、呼吸や食事など、生きていく上で必要不可欠な機能や、発声、味覚、聴覚などの社会生活を送るための機能が詰まった領域です。

このうち咽頭にできる癌を咽頭癌と呼び、従来、中咽頭癌、下咽頭癌には口から内視鏡を挿入して腫瘍を切除する内視鏡手術が行われてきました。

現在はこれに加え手術支援ロボットを用いた手術が実施されています。

福島県内初となるロボット支援下経口的咽頭癌切除術は、手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を使用して指導医として東京医科大学病院の清水顕臨床准教授を招へいし、本学附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師により実施しました。

ロボット支援手術では、狭い部位での細かい作業を安全に行うことができます。複雑かつ重要な機能が多い頭頸部において、これは非常



に大きなメリットで、嚥下(飲み込み)や発声などの機能をできるだけ残しつつ癌を切除することが可能な場合もあります。

耳鼻咽喉科学講座室野重之主任教授は「ロボットの導入で切除する場所を認識しやすくなる。適用のある患者への提示を進めたい」と述べます。





本学教員などが福島医学会各賞を受賞

令和6年1月25日(木)、優れた医学研究を行った研究者に贈られる本年度の福島医学会賞を、本学医学部小児科学講座の佐藤晶論准教授が受賞しました。

また、福島医学会学術奨励賞を、医学部消化器内科学講座藤田将史助教、同リウマチ膠原病内科学講座鈴木英二博士研究員

(一般財団法人太田綜合病院附属太田西ノ内病院リウマチ科部長)の2名が受賞。さらに福島医学会特別賞を一般財団法人大原記念財団理事長兼統括院長佐藤勝彦氏が受賞しました。

表彰式は本学で行われ、福島医学会で幹事を務める消化器内科学講座大平弘正主任



教授が一人一人に表彰状を手渡し、学術研究集会担当幹事を務めるシステム神経科学講座永福智志主任教授が陪席しました。

表彰式の後は、受賞者による受賞記念講演会が開かれました。

NEWS01 子どもの身体と心の健康を支援する 眠育・食育・足育調査を実施

令和6年2月17日(土)、本学保健科学部研究グループは、昨年に引き続き、子どもの健康増進に向けた「子どもの身体と心の健康を支援する眠育・食育・足育調査」を本学福島駅前キャンパスで実施しました。

食育、眠育、足育など、多角的な視点から子どもの心身の健康を調査することで、小学校の

児童、中学校の生徒の健康及び身体機能の特性を明らかにし、子どもと家族の心身の健康をサポートすることを目的としています。

当日は、福島市内の小中学生が参加し調査後には、本学教員が日常生活での改善点やアドバイスなど簡単なフィードバックを行いました。



NEWS02 第3回医療体験セミナーを開催しました

本学の学生ボランティアサークル「Tomorrow」は令和6年2月18日(日)に本学福島駅前キャンパスにおいて、小中学生を対象とした第3回医療体験セミナーを開催しました。

当日は、小学5、6年生と中学生合わせて35人の参加があり、理学療法学科・作業療

法学科・診療放射線科学科・臨床検査学科それぞれの取組みに関する体験機会を提供しました。

参加者からは「体験することで理解を深められた。もっと興味を持つことができた」という声が寄せられました。



NEWS03 看護学部ホームカミングデイを開催しました

令和6年2月14日(水)、看護学部第3回ホームカミングデイを開催しました。参加者は、在校生23名、卒業生7名(所属先は本学附属病院、保健所、大学院生)でした。

在校生が仕事の状況等について積極的に

話を聞き、とりわけ4年生は4月から自分が働くイメージを膨らませていたようでした。時に笑い声があり、和やかな会となりました。看護学部では、今後も母校とのつながりがもてるよう幅広い



交流の機会を設け卒業生と在校生を応援してまいります。



ANNOUNCEMENT

第8回ふくしま県民公開大学を開催します

ふくしま県民公開大学は、本学・広島大学・長崎大学で構成され、放射線災害・医学科学研究の学術基盤の確立を目的に、2016年に設置された「放射線災害・医学科学研究拠点」の事業の一環としてこれまで開催してきました。

今年度も、前年度と同様に、全4回シリーズのテレビ番組を制作・放送し開催します。

右記日程で放送予定ですので、皆様ぜひご覧ください。

※各回とも福島テレビにて20:54~21:00放送予定。
また、テーマは一部変更となる場合があります。

第1回 (3月5日(火))

「がん治療の革新 α線の精密なアプローチ」

講師 先端臨床研究センター 右近 直之講師

第2回 (3月12日(火))

「がん遺伝子パネル検査とは?」

講師 腫瘍内科学講座 木村 礼子助教

第3回 (3月19日(火))

「心理的負担は糖尿病と関係する」

講師 白河厚生総合病院第三内科 平井 裕之副部長

第4回 (3月26日(火))

「放射線被ばくに伴う健康影響に係る風評の払拭に向けて」

講師 放射線健康管理学講座 アミール 偉助教